新任教職員に期待するもの

奈良県教育委員会
教育長　吉田育弘

１　はじめに

皆さんが奈良県の公立学校の教職員として採用されましたこと、心からお祝いを申し上げます。本年度は新たに 344 人の皆さんを私どもの後輩としてお迎えすることができ、たいへんうれしく思っています。皆さんもたいへん晴れやかな気持ちでこの４月を迎えられたのではないでしょうか。教職員としての一歩を踏み出すことの喜びと、子どもたちの育みを支える、教育という大きな役割を担うことへの責任感をもって、これからの日々を過ごしていただくことをお願いしたいと思います。

２　GIGA スクール構想実現とこれからの教育について

国内初の新型コロナウイルス感染者が確認されてから１年以上経過しましたが、まだ収束の兆しは見えていません。令和２年度、教育現場は大きな影響を受け、臨時休業からのスタートとなりました。学校再開後は感染防止対策を徹底した上で、可能な限りの工夫を行い、子どもたちの「学びの保障」に努めることが求められました。奈良県では、学校教育の実現に向けた取組として、すべての子どもたちを支え、自らが学びたいときに学びたいことを学ぶことができるように、県内の公立小中学校でクラウドサービス（Google Workspace for education）の環境を用意して児童生徒や教員へのアカウントの付与を行いました。期せずして、国が GIGA スクール構想を前倒しで進めていくことに舵を切り、奈良県ではすべての公立小中学校で「一人一台の端末環境」が実現しました。このことにより、外出自粛時や災害時等においても、県域で学びを止めない教育活動が行えるようになりました。一人一台の端末環境は、令和時代における学校のスタンダードであり、Society5.0 の時代を生きる子どもたちにとって、鉛筆やノートと並ぶマストアイテムになっていくものと思います。

このように時代が大きく動き、学び方も変化する中で、私たち教職員に求められるものは何だと思いますか。私はその答えの一つとして、白血病を乗り越え競技に復帰した女子競泳界のエース池江璃花子さんの姿を見つけました。彼女は、2019 年２月、18 歳のときに白血病と診断されました。入院生活で体重は 10 キロ以上減り、筋力もすっかり衰えました。かつての自分には戻ることはできないと頭では理解していても、受け入れられず苦しい日々を過ごしていたそうです。それでも彼女は「これこそが自分の人生」と前を向き歩み出し、練習を再開します。前のように泳げない自分に焦っても仕方がないと思いながらも心と体が噛み合わず、一人苦しんでいたそうです。そんな彼女の背中を押したのは、20 歳の誕生日に日本代表選手や水泳部のチームメートなどからのサプライズのお祝いメッセージだったのです。涙があふれ出し、病床で過ごした１年前を思い出すとともに、今、一緒に目標に向かって進む仲間たちがそばにいることを心強く感じたそうです。その後、１年７か月ぶりに競技に復帰し、日本中に勇気と感動を与えてくれました。彼女は、２年間の歩みを振り返り、「いろんなこと、物事に対して、ネガティブになっていても仕方がない。好きな水泳をやっているんだったら楽しんで水泳をやりたい。今は今でやれること、

できることを全力でやることが一番大事」だと語っています。今まさに私たちは、コロナという強力な外敵に立ち向かっていかなければなりません。先行きの見えないコロナ禍ですが、予測困難な社会の変化に受け身で対処するのではなく、この状況を変化のチャンスと捉え、ポジティブに今できることに対して全力で挑戦していくことが大切だと思っています。

さらに彼女は、「スイマーとして、まずは水泳を本気で楽しむこと、泳いでいるのが楽しくないと思った時点で、私は泳ぐのをやめた方がよい時だと思っているので、それまでは本当に全力でやり続けたい。」とも語っています。教員として、まずは本気で子どもたちとの関わりを楽しむこと、教えることを楽しみながら、子どもたちと一緒に過ごす時間を大切に全力で頑張ってください。そして、未来に向かって第一歩を踏み出してほしいと思います。

３　子どもの心に火を付ける

いよいよ仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより Society5.0 の社会が実現しようとしています。そのベースになるのはいわゆる AI です。人工知能の発展です。この人工知能によって社会が大きく変化する、そんな時代に入っています。

私は趣味で囲碁を打ちます。囲碁は今や、ネットで相手が誰か分からなくてもゲームを楽しむことができるようになっています。この囲碁の世界では、絶対に AI が人間を超えることができないと言われていましたが、世界のトップが AI のソフトに敗れました。囲碁は盤面の中に、どのような世界を構築するのかと、自分で考えることが重要で、打ち手は無限にあります。そんな囲碁の世界であっても AI は人間を凌駕したのです。囲碁で敗れた世界チャンピオンはプロ棋士を引退しました。その理由の一つに囲碁 AI の圧倒的な強さを挙げているそうです。しかし AI やロボットが進化したとしても、教育の原点となる人の心に寄り添い、人を育てることは人間にしかできません。なぜなら、AI は人が与えたデータを処理するだけで、そこに感情はないからです。私は、AI が到達できない領域に「何かを好きになる」ということがあると思います。何かが好きだという気持ちがあれば、情熱が溢れ、夢中になってチャレンジし、夢の実現へとつながっていきます。夢と情熱があり、本気で走り続けている教師の言葉や姿は子どもに響き、子どもの心を動かします。

有名な教育学者ウィリアム・アーサー・ウォードの言葉にこんな言葉があります。「平凡な教師は言って聞かせるだけ、よい教師は説明ができる、優秀な教師は自らそれをやってみせる、最高の教師は子どもの心に火を付ける」皆さんも子どもの心に火を付ける、そんな教職員になってほしいと思います。新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことが求められています。子ども自らが主体的に考えたことを表現して、議論を深めていくことで深い学びにつながっていきます。そういった学びを通して、子どもの心に火を付けることができるのは、AI ではなく人間であり、その第一が我々教職員なのです。これからは、皆さんの授業はもちろん言葉や行動、人間力によって、子どもの心に火を付けてもらいたいと思います。

では、子どもの心に火を付ける教職員になるためには、どうしたらいいのでしょうか。大切なことは２つあります。

１つ目は、自らが学ぶ姿勢をもつことです。いくら知識やスキルを身に付けていても、学ぶ心や学ぶ姿勢をもっていないと、当然子どもは見透かします。子どもは先生の後ろ姿をよく見てい

て、先生の後ろ姿で子どもは教わるのです。ですから、子どもの心に火を付けられる教職員になるために大切な力は学び続ける力です。自分自身が「学び続けるプロ」という意識をもって、教職員として成長していってください。

２つ目はコミュニケーション能力です。いくら知識をもっていても、いくら他人より優れた技術をもっていても、相手に対してうまく伝えたり、教えたりできなければ教職員としてはうまくやっていけません。その中でも大切な力は聞く力です。伝える技術は経験や研修を重ねるうちに上達していくと思いますが、相手の話をよく聞いて、素直に、そして謙虚に受け止めて次のコミュニケーションや自身の成長につなげる姿勢を大切にしてください。話し上手は聞き上手ということわざがあります。人の話をしっかり聞ける人ほど魅力的な話ができる、人の心に火を付ける人物となるのです。また、知識や情報も常にアップデートすることで様々なコミュニケーションが可能になります。常にアンテナを広く張り、様々な情報を受け取れるようにしてほしいと思います。

４　学び続ける教職員をめざして

学び続ける教職員を支援するために、奈良県では教育研究所、奈良市では教育センターを中心に教職員を支援する体制を整えています。令和２年度から GIGA スクール構想を推進するための一連の研修を「先生応援プログラム」と名付け、県域で「いつでも、どこでも、学びたいときに学べる研修」をスタートさせました。デジタル教材の基本的な使い方、職務に合わせた専門知識の習得、授業実践に関する交流を学ぶ研修となっており、将来的には受講者自らが創る研修へと発展させていく予定です。特に小学校に着任される皆さんは、学級担任をもったり、新たに道徳や外国語の教科化に対応したりと、様々な専門性が求められる時代です。また令和４年度をめどに小学校高学年で外国語・理科・算数の３教科において、教科担任制が導入されます。奈良県教育委員会では、令和３年度から義務教育９年間を見通した教育課程を支える指導体制の構築を目指し、教科指導の専門性をもった教員を育成するための研修講座を実施する予定です。皆さんには、奈良県教育委員会のこのような研修を活用しながら、「学び続ける」という姿勢を具体化してほしいと願っています。

５　辞令書・宣誓書について

辞令書について、皆さんに少しお話をしたいと思います。辞令書の一番上には、「あなたをここに採用する」と書いています。県立学校に着任される皆さんは、県に採用された県の職員です。市町村立学校に着任される皆さんは、その市町村で採用された市町村の職員と認識してください。ただ、市町村で採用された皆さんも県費負担教職員ですので、給料は全て県でお支払いします。服務監督は市町村の教育委員会です。県の教育委員会は皆さんの任命権をもっています。任命権というのは採用する、処分するなどの権限をもっているということです。皆さんは公の立場としての公務員となるわけです。公の立場で皆さんは今後生活していくわけですから、当然公平でなければならないし、子どもの信頼を損なうようことは絶対できません。

このようにお伝えしていても、残念ながら毎年奈良県でも教員の中には不祥事を起こす人がいます。不祥事を起こしたら、本人が自分の一生を棒に振るだけでなく、その学校の子ども、保護

者、同僚、県民全員を裏切ってしまうことになります。だから奈良県の先生が誰一人として不祥事を起こさないということを、私は絶えず願っています。

６　おわりに

今、学校現場では、教員の長時間勤務の深刻な実態があり、働き方改革の実現が求められています。“子どもたちのため”を合言葉に、これまで志ある教員がその使命感から、様々な社会の要請に応えてきましたが、過労死に至ってしまうような痛ましい事態もあり、教員の働き方を変えなければならない状況です。時間はかけがえのない貴重なものです。学校現場において、今まで当たり前のように時間をかけて行っていたことを見直す視点をもち、“子どもたちにとって真に必要なものは何か”を考え、業務に優先順位をつけて取捨選択していく勇気も必要になってきます。自分の仕事の進め方や時間の使い方を意識し、「タイムマネジメント」を身に付け、日々の業務に邁進してください。

最後に、私の大好きな物理学者アルベルト・アインシュタインの言葉を贈ります。彼は、『晩年に想(おも)う』という著書の中で「教育とは、学校で習ったことをすべて忘れてしまった後に、自分の中に残るものをいう。」と述べています。このことは、学校で知識や技能を身に付けることも大切ですが、社会が直面する様々な問題に対応し、解決するために、自ら考え行動できる力を育てることが教育の目的であるということではないかと思います。卒業後に社会へ出た時にも学んでいける姿勢や意欲を身に付けさせるのが教職員の仕事であると思います。

たくさんのことをお話ししましたが、その責任の重さを強く感じるあまり、教職員として勤めることに不安にならないでください。安心してチーム奈良県の一員になってほしいと思います。困ったときには、私も含めて、教職員の先輩が必ず助けてくれると思います。ともに本県教育に携わる仲間として、自分の資質能力の向上に自ら努めていただき、どうか健康にはくれぐれも気を付けて、奈良県の教職員として第一歩を踏み出してほしいと思います。みなさんのこれからの活躍を心から期待しています。